

平成28年度 総合的な学習の時間にかかわる現状と課題

部長 尾崎 章

1 総合的な学習の時間の動向

今年度は16地区から活動報告が寄せられた。各地区が創意工夫し、授業研究会(10地区)、講演会(8地区)、地域巡検(3地区)、体験・実技研修(3地区)、演習・講座研修(2地区)、情報交換会(2地区)と多様な研修が活発に取り組まれた。また、11月11日に長岡市立脇野町小学校で当県小研指定3年次の「生活科・総合的な学習の時間授業研究会」が盛会に開催された。研究主題「自ら考え、自ら動く子」の下、生活科・総合的な学習の時間の研究実践授業が公開され、全県から大勢の先生方が集まり研修を深めていた。

(1) ふるさとへの愛着や誇りを育む地域素材(ひと、もの、こと)の活用・教材化

- 五泉市では、地元の特産品を題材に協同的に学ぶ授業研究を通し、ふるさとと真摯に向き合う子どもを育む総合的な学習のあり方、単元・授業作りについて研修した。
- 新発田市では、国語「伝え合う心」と関連させた「福祉」の研究授業と地元食材を使った調理実習を通して、家庭科・社会科、食育と関連させた総合的な学習の教材化を研修した。
- 村上・岩船では、地域素材を教材化した授業参観と思考ツールの活用の仕方についての演習を通して、総合的な学習における効果的な指導方法・実践指導を研修した。
- 佐渡市では、佐渡の自然・文化・歴史を学び、郷土を愛し、夢と誇りをもつ子どもの育成を目指す佐渡学を深めるため、各校の実践報告と専門家の講話から学ぶ研修を行った。
- 見附市では、講演会を通して、地域素材を生かした実践を進めるための単元作り、地域の人とつながるためのネットワーク作りについて研修した。
- 阿賀野市では、地元伝統工業の染工場見学と講話を通して、現代のニーズに応えるため様々な工夫を行っている職人・伝統工業を学んだ。地域素材の教材化の参考になった。
- 三条市では、地元企業スノーピークを見学し、首都圏や海外にも販路を広げる三条の産業を学んだ。また、笹団子作りも体験し、地域素材やもの作りの教材化を研修した。
- 魚沼市では、エコ・ミュージアムでレンジャーの方を講師に、トレッキングコース散策のフィールドワークを行い、魚沼地域の自然や独自の植物について研修した。
- 東蒲原郡では、地域巡検と授業研究会を通して、地域素材の教材化やゲストの活用、班や全体での検討のさせ方など総合的な学習を充実させるためのポイントを研修した。

(2) 子どもにつけたい力を育む総合的な学習の時間の授業作りの研修

- 燕・西蒲では、講演会と授業研究会を通して、地域の特質をふまえた単元の構成、単元全体にわたる追究の柱となる活動の設定など、総合の授業作りのポイントを研修した。
- 十日町・中魚では、授業研究会と講演・実習を通して、地域素材や外部人材の活用を含め、生活科・総合的な学習の時間の単元構想と授業作りについて研修した。
- 長岡・三島では、脇野町小学校の授業研究会の実践発表に学ぶとともに、ファシリテーションの講演と実習を通して、総合的な学習における「深い学び」の在り方を研修した。
- 上越市では、講演会と意見交換を通して、授業の作り方や目標設定の仕方、行動修正の考え方などを学び、探究的な学習過程の作り方について研修した。
- 新潟市では、授業研究会と演習形式の実践を通して、「子どもにつけたい力の明確化」と「ねらいと評価の一体化」を具現化した授業づくりの研修を深めた。
- 柏崎・刈羽では、センターの講座や総合的な学習の発表会・授業研究会、情報交換会を通して、教科のねらいを生かした探究的な授業作りや自校への活用を学び合った。
- 南魚沼市では、学習指導センターとの共催研究会を通して、地域の特色を学びながら、地域に根ざし、学力向上につなげる総合的な学習のポイントや課題について研修した。

2 総合的な学習の時間の課題

- ・脇野町小学校授業研究会の講演会をはじめ、幾つかの地区で次期学習指導要領に関する研修が行われた。今後とも、次期学習指導要領の趣旨を見据えた授業研究や、特にめざされている「社会に開かれた教育課程」に関わり、総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント等について研修を深めることが課題となる。
- ・子どもたちが主体的に協同的に探究的に取り組む総合的な学習の時間を展開するため、「主体的・対話的で深い学び」等についての研究や実践が深められることを期待する。

